

## 平成30年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

平成30年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果および平成30年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比99.8%（1,348千トン）と見込む。

※前年度実績値（平成29年）はVOC排出実態調査から得られた推計値1,351千トンを使用。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	352	99.9%	上期は自然災害の影響を受け低迷したが10月以降は天候に恵まれて工事が進み、オリンピック需要や消費増税前駆け込み需要などによる回復も見られ、昨年度並みの見込み。	
建築資材	70	100.4%	住宅需要は弱含みだが非住宅需要は好調に推移した。自然災害からの復興需要や消費増税前駆け込み需要もあり、アルミ建材や窯業建材等を含む建築資材は昨年度並みの見通し。	
構造物	75	98.7%	橋梁等の一部に堅調な動きもあったが、全般に公共工事が減少し、民間工事も厳しいところが見受けられた。大型案件は少なく需要が低迷し、全体として前年度をやや下回る見通し。	
船 舶	107	96.6%	中韓の過剰供給により新造船建造は低迷し塗料出荷は減少。2020年のSOX規制（船舶燃料油に関わる国際的規制）による塗替え需要は顕在化に至っておらず、全体としてマイナス。	
道路車両	新車	240	102.6%	2018年度国内生産台数は昨年度から微増と予測される。2017年排ガス規制強化前駆け込みの反動はあったが、安全機能装備の新型車投入などで需要増となり、塗料出荷は前年度を上回る見通し。
	補修	34	98.8%	若年層の車離れ、保険料率改定、衝突防止機能拡充等により、車両補修市場の縮小に歯止めがかからず。修理入庫台数は減少が続く。大型架装は好調に推移したが全体では昨年度をやや下回る。
電気機械	39	101.5%	省人化および生産能力増強に向けた設備投資が広範な業種で増加。これに伴い重電機、配電板、白物家電等の需要が堅調に推移した。前年度を上回る見通し。	
機 械	52	104.5%	好調な外需と、オリンピック需要、非住宅物件の工事需要などが好調な内需を背景に、建設機械や工作機械が堅調に推移。年度終盤は外需の減速が顕在化するも、前年度を大きく上回る。	
金属製品	105	101.1%	活況な大都市オフィス市場を背景に鋼製家具の需要が増加。カラー鋼板は災害復興需要があり、オリンピック施設や都心再開発ビルからの引き合い増加傾向。住宅市況は弱含みで総じて微増。	
木工製品	16	98.2%	住宅着工件数の減少、海外安価木工品の拡大、木材から他材質への置換えなど、国内需要は厳しい状況が続く。年度後半に消費増税前駆け込みが見られたが、全体としてマイナス。	
家庭用	27	100.0%	上期は自然災害の影響を受け低迷したが10月以降は天候に恵まれて補修等の需要が拡大し、上期の落ち込みをカバーした。前年並みの見通し。	
輸 出	75	98.9%	輸出増となった需要分野はあったが、中国の需要低迷や米中貿易摩擦の影響で外需が減少した分野もあり、全体として前年度をやや下回る見通し。	
路面標示	72	96.2%	需要増となった地域はあったものの、昨年自然災害の影響により舗装関連工事が遅れたり、予算が他の復旧工事に回されるなど、厳しい状況が続く、マイナスの見通し。	
その他	86	95.3%	皮革用塗料など、その他の需要は全般に減少が続いている。	
合 計	1,348	99.8%	機械、電気機械、金属製品等の工業用及び新車用は堅調に推移。建物と建築資材は自然災害の影響からの反動が10月以降活発化し昨年並みに挽回。他分野は弱含み推移し、全体として昨年並み。	

注) 経済産業省統計や塗料製造業実態調査での品目「シンナー」は、塗料用として使用している38.8%分を組み入れて計算した。なお、端数処理の関係から合計が合わない場合がある。